

原発核事故後の時代をキリスト者として生きる

福島からの問いかけ



人類史上初の4つの原子炉が同時に崩壊した東京電力福島第一原子力発電所核事故から5年。福島県内では復興のうねりがますます大きくなり、「福島は元気!福島は安全!」と希望に溢れた笑顔が新聞に掲載されます。しかし、その一方で原発構内では、作業員7千人による危険で困難な廃炉作業が、これから30年以上続くのです。また原発核事故により大切な日常が奪われた人々の悲しみや呻き、迷いもさらに深く複雑になっています。11万人が未だに家に帰れず、汚染土は2015年3月現在、県内10万箇所に現場保管されながらも、未だに誰も原発核事故発生と拡大の責任を取っていません。それどころか日本政府や福島県は、東京オリンピックを原発震災から復興した日本を世界に知らせる絶好のチャンスと捉えています。

原発核事故後の時代を、私たちキリスト者はどのように生きていくのでしょうか。平和を作りだす者の役割を共に考えたいと思います。

日時：2016年 **3月19日** (土)
14時～16時 (開場:13時半)

入場無料
※席上カンパあり
申込み必要なし

会場：日本キリスト教団 **名古屋中央教会**

名古屋市東区久屋町8-6 TEL:052-971-9012 1階マナホール
※地下鉄 東山線・名城線 栄駅 5番出口出ですぐ

講師：会津放射能情報センター 代表 **片岡 輝美**



1961年福島県生まれ。85年夫・片岡調也の日本基督教団若松栄町教会着任のため故郷会津若松へ。2005年九条の会・西栄町学習会を結成。「自分のことばで平和を語る」をモットーに月例学習会やピースウォークや講演会などを企画。2011年3月15日から2週間義弟宅(三重県鈴鹿市)に四男、妹親子と避難。会津若松に戻り、会津放射能情報センター(同年7月)を設立し代表となる。著書は『今、いのちを守る』(日本基督教団出版局)など。



※駐車場に限りがございますので、公共交通機関をご利用下さい。

主催：名古屋キリスト教協議会

後援：日本キリスト教婦人矯風会名古屋

問合せ：TEL052-411-5367 (日本イエス・キリスト教団名古屋教会)

名古屋YWCA